

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総合版)

第 3 2 号

【平成 23 年 9 月 20 日 (火) 発行】
発行：J A グループ宮城災害復興本部
編集：J A 宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8697 又は 264-8207
FAX 番号：022-216-4466
E-mail：jataisaku@gmail.com

《目次》

I. 復興本部からの情報提供

1. 「原発被害克服・安全安心な食料農業政策確立宮城県大会」を開催
2. 「平成 23 年度北海道・東北地区 J A トップセミナー」を開催
3. 千葉県 J A いちかわから梨 6000 個が届く
4. J A グループ支援隊活動について

I. 復興本部からの情報提供

1. 「原発被害克服・安全安心な食料農業政策確立宮城県大会」を開催

9 月 14 日 (水) 仙台市内の国際センターにおいて、J A グループ宮城は「原発被害克服・安全安心な食料農業政策確立宮城県大会」を開催しました。福島第 1 原子力発電所の事故により県内農畜産物が出荷停止措置や風評被害による価格下落にあっていることに対し、適正な安全対策を国に求め消費者の信頼を取り戻そうと県内農業者が一丸となって取り組むことを決意しました。

生産者からの声として 4 名の代表者が意見を表明し、枝肉価格の低迷により農業経営がおぼつかないことや、米の安全性について消費者の不安を払拭できていないこと、長年培ってきた信頼が一気に崩れたことに強い憤りを感じていることを延べました。

また、同日 J A 宮城中央会菅原章夫会長らは、東日本大震災現地対策本部の郡和子本部長、東北農政局の佐藤憲雄局長、宮城県村井知事に、震災からの復旧・復興の対策をより迅速に行うよう要請を行いました。



農家の苦境を訴える J A 宮城中央会菅原会長 (中央)



ガンバロー三唱を行う参加者一同

2. 「平成23年度北海道・東北地区JAトップセミナー」を開催

9月6日(火)および7日(水)宮城県松島において、平成23年度北海道・東北地区トップセミナーが開催されました。JA常勤役員、中央会・連合会役職員、道県青年組織・女性組織役員等約200名が参加し、東日本大震災からの復興と農業復権についての見識を深めました。

基調講演では、経済評論家の内橋克人氏が「FEC自給圏で震災復興を」と題し、食料・エネルギー・介護を国内・地域内で賄うため、協同組合の精神を生かして欲しいと話しました。

また、被災地からの復興に向けた取組みとして、JA仙台：高野秀策組合長、JAそうま：鈴木良重組合長、JA岩手県中央会：朝倉栄常務が事例発表を行いました。

高野組合長は、「農地を復旧し離農者を防がなければならない。生活のための一時的な離農から本当の転職になってしまうことが心配だ。農地を復旧してから集団移転・大規模化の構想に移るべき」と述べました。

3. 千葉県JAいちかわから梨6000個が届く

JAみやぎ亘理およびJAいしのまきに、千葉県のJAいちかわから特産の梨が合計6000個届きました。被災地に少しでも笑顔を取り戻して欲しいと、JAいちかわ果樹部会が送ってくださったものです。

それぞれのJA管内の仮設住宅や保育所・小学校に配り、食べた児童らは梨の甘い味に歓声を上げていました。

4. JAグループ支援隊活動について

全国JA支援として、4月より継続的に「東日本大震災JAグループ支援隊(全国のJA役職員による災害復興支援ボランティアチーム)」が被災JA・組合員への支援活動を行っています。

現地からの評価が高いため、JA全中は7月末までとしていた予定を変更して10月まで延長することを決定しました。

- (1) 第17陣23名が9月5日(月)に到着しました。今回の支援隊には、埼玉県のJA職員、全国連職員の方が参加しています。9日(金)まで、12名がJA南三陸管内で、11名がJAみやぎ亘理管内で、園芸用パイプハウスの撤去・修復作業等を実施しました。
- (2) 第18陣50名が9月12日(月)に到着しました。今回の支援隊には、鹿児島県・岐阜県・長崎県・宮崎県のJA職員、JA全中職員の方が参加しています。16日(金)までJAみやぎ亘理管内においてハウス内整理作業等を実施しました。
- (3) 第19陣40名が9月26日(月)に到着する予定です。30日(金)までJAいしのまき・JAみやぎ亘理管内でハウス内清掃作業等を実施します。

以上